

(学校用)

様式 A-1

平成 27年 9月 29日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 香川県立観音寺第一高等学校 黒川 雅代
2. 講師氏名: Dr. Scott Groom
3. 同行者氏名: なし
4. 実施日時: 平成 27 年 9 月 25 日 (金) 13:30 ~ 15:00
5. 参加生徒: 2年生 29人、 1年生 1人、 0年生 1人 (合計 31人)
備考: (例:理数科の生徒) 本校 理数科の生徒 (2年)
6. 講演題目: (英文) Evolution of Social Behaviour: A comparison of Gene Expression in a Japanese Bee Species
(和文) 社会行動の進化: 日本のハチにおける遺伝子発現の比較
7. 講演概要:
 - (1) 講師の自己紹介(研究のきっかけなど)とオーストラリアについて。簡単な質疑応答。
 - (2) ハチと社会的行動の概要と研究内容。
 - (3) 質疑応答(20分間)
8. 使用言語: 英語
9. 講演形式:
 - (1) 講演時間 70 分 質疑応答時間 20 分
 - (2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)
プロジェクター使用による講演
 - (3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)
なし
 - (4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)
重要用語リスト(英語)とその説明(日本語) / 講演テーマに関連したウェブサイトでの調べ学習(日本語)
10. 学校からの支給経費(該当がある場合): 交通費 宿泊費 謝金
なし
11. その他特筆すべき事項:

できるだけ簡単な説明、あるいはわかりやすく言いかえをしてくださいました。はっきりとゆっくり話してくれたので、講師の英語は聞き取りやすかったと思います。写真スライドに、写真や簡単な

日本語の説明をつけて、生徒の理解を助ける工夫をしていました。また、生徒に質問を促すための工夫をしていて効果があったと思います。生徒も、積極的に手を挙げて、質問を英語でできたことを肯定的にとらえています。講師の研究内容(コハナバチの遺伝子発現)についてももう少し詳しく講義してほしかったです。